

敬心学園・職業教育研究開発センター・主催・ ・介護教員講習会・

『介護教育方法』 シラバス 担当 川廷 宗之

2021年09月25日～12月18日・開講 2021年度（第25期生）用

1. 科目名 介護教育方法

2. 「介護教育方法」の学びへのご招待

業界の内部にしていると意外に気が付きにくいのですが、介護や介護教育をめぐる社会環境は急激に変化をしています。いわく、ロボット化、外国人介護士、介護保険制度の見直し、……。しかし、介護はまだまじな方で、他の業界や教育業界はもっと大きな激しい変化の真最中にあります。そこを狙い目に、介護には、従来の介護業界以外の業界の方々も熱い視線を向けています。そういう中で、「**プロの教員**として生き残って行くには（教員になるには）どうすれば良いのか」も考えなければなりません。

以下のシラバスをお読みになると、大変だなと思われる方も多いかもしれません。しかし実際にこの講習で学んでみれば、基本は真面目に努力される皆さんですから、大変ではありますが充実した学びを得られ、**プロの介護教員**として生き残っていく力量を身に付けられるのではないかと考えています。そして、是非、皆さんの前に現れる学生の皆さんを、介護現場で介護を楽しめる現場のリーダーになりえる**プロの介護福祉士**になれるよう支援してあげて頂きたいと思えます。このシラバスを最後までしっかりご覧いただき、この講習に取り組んでいただければ幸いです。皆さんとの出会いを楽しみに……。

なお、この**授業概要**ではなく「**シラバス**」の形式や内容は、米国の教育業界では1980年代から作成されている**Syllabus**を踏襲しています。（ご参考までに）

3. 科目担当者及び学生 （授業を構成する人々）

- 働きながら、それでも学ぼうという「**プロの介護教員**になろう」という目的意識のはっきりした皆さん。かつ「学びの主体者」として、単に授業を受けるというのではなく、自ら学ぶ姿勢で、仲間と共に授業を作っていくことを目指す（超多忙な？）、熱心かつ優秀な、介護教員又は介護教員を目指す皆さん。（*現職介護教員 *介護教員志望者）
- 皆さんとともに、学習を展開する科目担当者は、生真面目なことで、いささか抜けていることで有名な、川廷 宗之（かわてい もとゆき）（福祉教育学・ソーシャルワーク論・介護福祉学専攻）（大妻女子大学 名誉教授）（NPO法人日本介護予防協会理事長）（敬心学園職業教育研究開発センター長）（日本社会福祉学会理事）です。

4. 日程及び、授業時間

2021年9月25日（土）から12月18日（土）まで土日7日間。1回目と12回目を除き、朝9時半から午後4時半まで。（お昼休み40分を含む。） 第1回・9月25日（土）

- ・第2回・第3回・10月09日（土）・第4回・第5回・10月23日（日）
- ・第6回・第7回・11月06日（土）・第8回・第9回・11月27日（日）

・第10回・第11回・12月11日（土）・第12回・12月18日（日）

この科目では、授業時間以外の予習復習の時間の確保を必要とします。（厚労省の指定カリキュラムをこなすために、開講期間中は、ほぼ毎回課題（宿題）が出ます。そのため、日程を原則1週間おきにしてあります。課題は事前に予告（このシラバスの16. を参照）しておきますので、適宜準備をしておいて下さい。

5. 実施方法 全部、Zoomを使用したオンライン授業。受講される方は基本的にはPCによる受講環境を整えてください。（通信環境の設定も必要です。） スマホによる受講はかなり困難を伴いますので、ご遠慮ください。

6. 皆さんと教員とのコミュニケーション ー問い合わせ・連絡先ー

ご質問や問い合わせなどのご連絡は歓迎します。出来るだけ、授業時のチャットの活用や休み時間などを活用して下さい。受講生コメントカードでの質問も奨励されます。コメントカードでの質問が間に合わない場合は、Eメールでお願いします。個別での回答には2～3日、内容によっては1週間前後の時間を要する場合がありますのでお含みください。

Eメール kawateikaikyo@yahoo.co.jp なお、提出課題やレジュメの提出は、事務局のアドレスにも同報（cc：）をして下さい。事務局でも提出状況の点検が行われていますので、忘れない様に。（事務局アドレスは、追って連絡します。）

また、質問は開講前から受け付けます（講師アドレスのみ）が、メール等をお送りになる場合、本文の冒頭に、お名前とともに（R D I・介護教員25期）と記入してから本文を記入してください。このアドレスは、同時期に開講されている他の介護教員講習会のメンバーも使っていますので、宜しくお願い申し上げます。

7. メイン・テーマ 介護福祉士養成校教員のための「介護教育方法」

8. キーワード

- ・職業教育・社会人基礎力・キャリア・ガイダンス・教師教育・実務家教員・進路指導
- ・生涯学習・社会人学生・リカレント教育
- ・教育方法・授業設計（計画）・シラバス・授業案・教材開発・授業評価
- ・カリキュラムポリシー・ポートフォリオ・コマシラバス
- ・アクティブラーニング・協同学習・問題解決学習・授業研究・体験学習
- ・国際的教育・ダイバーシティ・技能実習（生・制度）・学習権宣言

《この講習で学ぶ主要キーワードのみ》 介護福祉教育に関するキーワードは、皆さんで考えましょう。

9. 授業の目的と達成課題

「介護福祉士」の養成教育を行う短大相当¹以上の《高等教育を担当する》教員として

¹ 国際的には、日本の専修学校（専門学校）は、高等教育機関（18歳以上の教育機関）として短大と同様の扱いになります。国内的にも、専門学校卒の学歴は、大学の3年編入資格と認められる場合が多数あります。

の、学生の教育方法に関する基本的力量を修得することが、基本目標です。それを詳しく整理していうと以下ようになります。

(1). (望ましい) 到達目標

教育方法に関する基本的な概念や用語について理解している事を前提として、介護福祉士養成校の教員として必要な、介護教育方法についての、基本的知識や技術を修得し、倫理について考察することがこの授業の目的です。従って、その到達目標としては、短大相当の専門学校教員としての以下のような力量を身に着けることです。

- ① 介護福祉教育の全体像・教育課程・介護関連科目の内容・介護関連科目の教育方法・等に関する基本的な概念や用語について把握（理解している。概念や用語を使って自分の意見を主張できる）すること。
- ② 介護福祉教育に関する教育課程の編成・適切なシラバスの作成・授業案の作成を前提として、魅力的な授業を展開していく教育的力量を修得すること（できるようになること）。（できれば、他の教員の教育的力量を支援できる力量をも修得する。※、他の教員より力量的にまさるということでは、必ずしもない。）
- ③ 介護福祉に関する深い知識（様々な介護について、何故、それが必要かを説明できる程度の）と、介護福祉実践についての共感的理解（自己体験の客観化を含めて）を前提として、介護福祉実践に関する研究（方法）を展開しつつ、そしてその介護福祉研究と介護福祉実践とを統合して学生の力量に結び付けていく教育的力量を修得すること。

(2). 基礎的（基本的）な (必須) 達成課題

介護福祉士養成校の専任教員としての力量、及び、同校の教務主任としての最低限の力量を身につけることが（法令に規定されている）達成課題です。そのためには、学生支援のための授業技術に関する基本的な理解を実践的・体験的に深めることを通して、以下の力量を身につけることが求められます。

- ① 介護福祉士養成校の教員として必要な 介護教育方法（教授法）についての基本的な知識（もちろん「介護」に関する知識を含む）や技術を（教育学・教育評価・教育方法の履修と併せて）身につけること。
- ② 授業における学生支援としては、以下の各項をできることが求められます。
 - * 教育方法に関する基本的な概念や用語について理解し、その内容を他者に説明できること。（教員間・他職種・などに向けて）
 - * 授業技術に関する実践的・体験的な理解を前提として、介護福祉士養成課程のいくつかの個別科目に関し、学生が介護実践に有効と感じる授業を展開できること。
 - * 「介護」に関する知識や技術に関し、専門的な造詣を有するのは当然の前提です。（関連の研究発表をおこなう程度の力量を含む）
- ③ 介護福祉実践についての共感的理解（自己体験の客観化を含めて）を前提として、様々な介護福祉実践や、介護福祉士養成教育の実践から、自分の介護や教育を改善していくヒントを学び取れるようになること。その内容を学生に語れるようになること。

《参考》 職業教育を担当する短大相当以上の《高等教育を担当する》教員が、必ずでき

なければならないこととしては、以下の a です。通常はキャリア3～4年以上で b が、6～7年以上で c 段階の内容を担当できることが求められます。以下のような項目が上げられます。

「a. 非常勤・科目担当レベル」の教員が最低限出来なければならないことは以下の通り。

- ①. 学生達とのコミュニケーションや、適切な対応をする事。(力量・能力)
- ②. 学生を理解し把握（個別学生の性格・力量・能力・志向等）する事。(力量・能力)
・・担当科目関連はもとより、学生の様々な力量を評価する力量を含む
- ③. 学生達への個別的な学習指導（アカデミック・イアソ）ができる事。(力量・能力)
・・知識の伝達ではなく、学習方法を修得させる事。(力量・能力)
- ④. 学生達の進路指導を行う（ともに未来を考える）事。(力量・能力)
- ⑤. 担当科目の授業計画を作成する（授業全体を構成する）事。(力量・能力)
- ⑥. 担当科目のシラバスを作成し、学生に説明する事。(力量・能力)
- ⑦. 毎回の授業の授業案を作成する事。(力量・能力)
- ⑧. 作成した（作成されている）授業案に基づいて授業を行う²事。(力量・能力)
- ⑨. 自己の授業実践を評価し、授業計画や授業を改革する事³。(力量・能力)

「b. 専任・教務補佐レベル」の教員が最低限出来なければならないことは以下の通り。

- ①. その教育課程（ここでは介護福祉士養成の教育課程）の全体構造を図解して学生等に説明できる事。(力量・能力)
- ②. 時間割りを編成できる事。(力量・能力)
- ③. 担当学科目領域の社会的実践（此处では介護福祉実践）についての理解と、担当学科目領域（此处では介護福祉学）の研究手法の理解⁴、そして、その実践と研究を統合して学生の力量に結び付けていく事。(介護の力量・同能力・教育的力量・同能力・統合的力量・同能力)

《以下のF及びGに関しては、この授業では扱いません。が、参考までにご紹介しておきます。いずれ折を見て学習を深めてください。》

「c. 教務責任者レベル」の教員が最低限出来なければならないことは以下の通り。

- ①. 入試選抜に関する力量（もっとも教育効果を上げられる学生を選ぶ）
- ②. 学生の総体的な把握（全体の成績・動向・等）をする力量
- ③. 様々な情報ルートを確保し、非常勤教員を探し依頼する力量
- ④. 担当外の各科目のシラバスを点検し、その授業の質を見抜く力量（授業の構成能力であるが、担当外科目のシラバスでも点検し、その授業の質を見抜く能力、ス・パ・ー・ヴ・イ・ン能力を含む）
- ⑤. 毎回の授業の指導案作成力や実行能力に関するス・パ・ー・ヴ・イ・ンを行いうる力量、

G, 「d. 校長レベル」になれば、学生の総体的な把握や卒業時の進路指導や、その他の管理運営能力⁵などが求められています。

² 当該授業で求められているアウトカムを実現することが求められる。

³ 自己改善能力。教員や対人サービス従事者の中には、この点に無自覚な人が少なくない。

⁴ 最近では、小中学校の副校長以上の管理職には、修士号以上の学位（教育研究歴）を求めるケースが多くなっています。ましてや短大レベルの教員。しかし学歴よりも「研究発表歴」の方が重要です。

1.0. 授業の形式・授業方法

- A. この授業は、「介護教育方法」という科目の授業の目的に照らし、必要な力量を身につけることが目標です。単なる知識の修得が目標ではありません。（使えない知識を学んでも意味がない。）
- B. 従って、授業実践それ自体から、体験的に学ぶ部分が大きいので、授業方法は単なる講義法⁶による授業展開を出来るだけ避け（それでも、かなり講義が入りますが、）、皆さんの主体的な参加を大切に、全員が自分の見解を述べあえる授業方法をとります。そのためには皆さんが事前に、質問や異見を用意するなど、皆さんは授業に自分で関わっていく努力を丁寧に続けてください。
- C. この授業はオンラインで行われますが、上記A・Bは、対面授業とほぼ同様、あるいはそれ以上の力量身に着けていきましょう。

1.1. 教材・テキスト

テキストA・・・川廷宗之編著『介護教育方法の理論と実践』弘文堂

テキストB・・・川廷宗之編著『専門職大学の課題と展望』ヘルスシステム研究所

・・・早川 操・伊藤 彰浩 編著『教育と学びの原理』（名古屋大学出版会）

主要参考文献

- ・・・川廷宗之編著『介護教育方法論』弘文堂（絶版・今ならまだアマゾンなどで。）
- ・・・川廷宗之著『社会福祉教授法』川島書店（希少本・入手はアマゾン等で）
- ・・・川廷宗之・永野淳子編著『アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック』みらい（社）刊 （同書2頁に案内されている「学習支援資料」をダウンロード（無料の筈です。）しておくと便利です。
- ・・・本田 由紀著「教育の職業的意義」ちくま書房
- ・・・川廷宗之編著「社会福祉士養成教育方法論」弘文堂
- ・・・D. W. ジョンソン他著『学生参加型の養成校授業』玉川大学出版部
- ・・・梶田 叡一著『教育評価』有斐閣
- ・・・山本崇雄著『なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか』日経BP社
- ・・・溝上慎一著『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- ・・・林 純次著『残念な教員・・・学校教育の失敗学』光文社新書
- ・・・川廷 宗之他編著『基礎ゼミ』弘文堂

その他・授業中に逐次紹介します。（良い本は智恵の宝庫です。読んでみるといろいろな発見があるはずです。是非できるだけ、購入したり借りたりして読んでみましょう。）

1.2. その他教材

事前及び毎回、資料を配付（送信）する予定です。又、皆さんが提出する課題も配付（送信）されます。このシラバスを含むこれらの資料は、その後の授業でもしばしば振り返って使うので、いつでも取り出せるようにしておいてください。（文書の保管システ

⁶ 余り望ましくない授業方法であり、数年中に滅びていく授業不法ともいえる。

ムを考えておいてください。) (学習仲間からも資料を頂くことになります。予定通り
いけば、A 4 用紙で100頁以上の資料を扱う(あなただけの1冊の本が出来る)ことにな
りますので、きちんとファイルで整理をしておかないと、取り出せなくなってしまう
す。)

※. 授業とは、皆で自分たちの学びを1冊の本をまとめていく過程とも言える。

(シュタイナーの小学校教育・・・)

1 3. 他の授業との関連

原則として、この科目は、教育基礎分野として、教育学(教育の全体像の理解)・教育
方法・教育心理(教育対象者の理解・特に青年期の)・教育評価の4科目を学んでいるこ
とを前提に、また介護関連科目を履修していることを前提に、進みます。まだ、学んで
いない科目のある方は、すくなくともテキストの内容は、隅から隅まで確り読み込んで
おいてください。

又、この介護教育方法は、介護福祉士養成教育課程の全体像を学ぶことを目的として
いますから、常に他の科目で学んだ事や、現実の介護実践とどうつながるのかを意識し
ながら学習を進めて下さい。

1 4. 成績評価の方法・採点基準

この科目の修了認定は、基本は全日程出席していることが前提です。そのうえで修了
認定に関しては、(他の介護教員講習では最終日に試験を行う場合も多いようですが、)
この科目の単位の認定は、以下の様に行います。

- a 毎回の授業における意見発表や参加度の評価 (受講生コメントカードの記入内容)
- b 事前学習課題やホームワークの作成状況
- c 『私の授業の課題と、その改善方法』(2000字以上を目安)についてのレポート、
の3つで評価します。

比重は、a 15% b 35% c 50%とします。

なお、c のレポートは、授業終了後2週間以内に提出予定、提出先等は追って連絡しま
す。評価点数のグレードや想定される合格ライン等に関しては、第1日目の第1講で補
足説明をします。(合格ライン≪各項目60%以上、全体で70%以上≫)

1 5. 毎回の授業予定と主題

全36時間・課程

※. 学習日程は皆さんの学習の進捗状況の都合などで、一部変更がありえますのであら
かじめ御了解ください。(主な学習内容 ≪途中変更の可能性あり≫)

※. 学習を進めるのに必要な、より詳細な内容は、その都度示します。

第1回・

単元1. 導入・授業設計

第1回・介護福祉士養成課程の授業≪授業設計≫をどう創っていくか

・介護福祉士養成教育改善の必要性とその方向

アットメント1・・・「私が出会ってきた教員」像に関する短いレポート

アットメント2・・・介護福祉教育の関連科目の「授業設計」を創ってこること。

第2回・第3回・

単元2. 介護福祉教育の構造と内容・syllabus作成法

第2回・介護福祉教育の構造と内容と学習方法・授業設計内容の確認・

・附件3・・・「授業設計」修正案の作成

第3回・学生の生活経験と学習力の課題・学生の期待をふまえて、学生の学習支援をすすめていくために、シラバス(syllabus)をどう創るか。 <<授業設計を前提に>>

ー学生へのメッセージ・学生へのメッセージ

・附件4・・・syllabusを創ってくる。コメント作成

第4回・第5回・

単元3. 個別授業科目の構造と学習方法・授業案を創る

第4回・そのsyllabusで、学生は集まるか。シラバスを見直す。

・附件5・・・シラバスの修正

第5回・その回の授業をどう作って行くか。授業案作成法

・附件6・・・授業案を創ってくる・コメント作成

第6回・第7回・

単元4. 授業の展開に向けて

第6回・授業案の点検と改善・学生と教員にとって・・・

附件7・・・授業案を修正する(なぜそういう修正)

第7回・教材作成入門・アクティブラーニングの展開

附件8・・・授業案に基づいて、必要な教材を創ってくる(準備教材含)

第8回・第9回・

第8回・教材を活用しての授業展開のイメージ

附件9・・・修正教材とコメント作成(なぜそういう修正)

第9回・実際の授業展開(模擬授業)に向けて「評価」の準備

附件10・・・ミニ・テスト課題・評価票

第10回・第11回・

単元5. 模擬授業と介護教育方法のまとめ

第10回・教員としての学び・学生としての学び模擬授業1(教員として・学生として)

第11回・模擬授業2(教員として・学生として)

附件11・・・授業展開の為に残された課題・授業報告書の作成

第12回・

第12回・介護福祉士養成教育の展望と課題・私たちは何を学んだか

・模擬授業から何を学んだか・・・

16. (授業中に提出を予定している) 事前学習課題一覧 出題する回で整理

※. この講習会は、その都度提示していたのでは学習を効率的に進められないと思われるので、事前に課題を提示しておきます。内容説明はその都度補足します。しかし、直前に取り組むだけでは人によっては難しいし負担も大きいので、あらかじめ提示しておきますから、最終の細かい修正はともかく下書きレベルではできるだけ事前にご準備ください。

課題の作成に当たっては、テキストなどのほか、何を見てもかまいません。発想の広がり期待しますので、自由に夢を広げて考えてみてください。

第1回・アイトム1・私が出会ってきた教員

「あなたが「好きだった（良いと思っていた）先生」と「嫌いだった先生」をおひとりずつ挙げて、その特徴を、それぞれ五項目以上の箇条書きでまとめてきてください。」

≪A4サイズの用紙1枚（縦置き）に、横書きで、①上記課題、②記入者氏名 ③「好きだった先生」（お名前は、匿名で可。小中高など学校かを記入。内容は箇条書き。）④「嫌いだった先生」（③項に同じ）、⑤参考（引用）資料名、を記入し、第一日目の朝、プリントを提出して下さい。PCでの作成が望ましいと思います、手書きでも差し付かえありません。≫

第1回・アイトム2・・・介護福祉教育の関連科目の「授業設計」を創ってこること。

厚労省資料「領域の目的と教育内容等」の表中の、領域「人間と社会」の「人間と社会に関する選択科目」の中から、任意の1科目を選んで、その授業設計を作ってきてください。

第2回・アイトム3・・・「授業設計」修正案の作成

皆さんでの協議を踏まえて「授業設計」の修正案を出してください。

第3回・アイトム4・・・シラバスを創ってくる。・コメント作成

当該「授業設計」を踏まえて、学生向けのシラバスを作ってきてください。

第4回・アイトム5・・・シラバスの修正

皆さんでの協議を踏まえて「シラバス」の修正案を出してください。

第5回・アイトム6・・・授業案を創ってくる ・コメント作成

作成した「授業設計」やsyllabusに対応する最初と最後を除く回の授業案を作成してきてください。（授業案の作成方法は、『アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック』みらい（社）刊・・・の、同書2頁に案内されている「学習支援資料」の12頁から16頁を参照してください。）

≪この課題は、作成上のページ数制限を設けません。それ以外の提出方法は上記に準じます。但し通常は、最低でもA4で2～3ページ以上。≫

第6回・アイトム7・・・授業案を修正する（なぜそういう修正）

皆さんでの協議を踏まえて「授業案」の修正案を出してください。

第7回・アイトム8・・・授業案に基づいて、必要な教材を創ってくる（準備教材含）

作成した「授業案」に基づいて、必要な教材を作成してください。

第8回・アイトム9・・・修正教材とコメント作成（なぜそういう修正）

皆さんでの協議を踏まえて「授業設計」の修正案を出してください。

第9回・アイトム10・・・ミニ・テスト課題・評価票

模擬授業に備えて、必要なミニテスト問題や、評価表《授業》を作成してください。
第10・11回・アイト11・・・授業展開の為に残された課題・授業報告書の作成
模擬授業を踏まえて、報告書を作成して下さい。

1.7. ホームワーク（この授業では、とても大切な部分です）

第一のホームワークは、毎回の授業で出題される課題への対応です。多くの場合この課題は自分にとっても、ともに学ぶ仲間にも大きな意味を持ちますので、必ずやってきてください。但し、特殊事情が有ってできなかった場合も、その旨釈明するとともに、学習の場で然るべき役割を取るなど、リカバリーの方法がないわけではありませんので、欠席をしない様にしてください。（注意：提出される課題は教員に出すだけに私的なものではなく、授業の提出する公的なものですから、授業に参加している仲間にも配布されます。）

第二のホームワーク（宿題）は、（教育技術としての）観察技術及び表現能力を高めるための訓練として、毎回一句の俳句と一首の短歌を作成してくることです。なお、俳句は観察したことを中心に詠むことを課題としますので、季語は問いません。（この授業の性格上、アセスメント力量を高めるために、観察対象を学生、又は若者、あるいは利用者の皆さんに限定します。但し原則ですから例外を認めます。）この授業では、自己覚知（や他者の心境を推し量る）訓練としての短歌は自分の心境を中心に書いてください。この俳句短歌の内、私の選択眼に叶うものについては、授業資料に掲載するなど、受講生などに紹介します。色々な事情があって掲載されたくない場合は、『掲載不可』と添書しておいてください。（観察技術・表現技術の重要性・あなたはどれだけ出来ていますか・・・自己覚知）

第三のホームワークは一般的な予習課題です。この授業では、事前にテーマやテキスト、参考文献等が設定されています。従って、その内容について授業前に考え、質問（疑問）や異見を複数、提示できるようにして（できればメモにまとめて）くることです。

最近の日本の高等教育では、そこまで求めない「いい加減な授業」が多いようです。しかし、国際的には、授業に出席するためにはこの程度の準備をしてくるのは当然のことです。また、これをしてこないと、この授業で身に付けられる内容が極めて薄くなってしまい、効率的な学びが出来ません。（予習をしてこないために、授業内容が身につかない分は、受講生の責任範囲です・・・製造物責任の除外範囲の指定・・・教員側は責任を負わない範囲）

※. 宿題は宿題です。参加者の皆さんの中には、既に教員としてご活躍の方もおられると思います。中に、自分は教員なのだから、子どもではなく大人なのだからと、自分の判断で対応するからと、やってこない方がたまにいます。授業と言う集団での学びの場で、そういう特別扱いを求めるのは、大人の美学に反する「野暮な話」というもので、教員（大人）としての倫理（行動規範）を逸脱する、望ましくない行為でもあり、ルール違反です。

1.8. 履修のポイント、履修上の留意事項

☆ 以下は通常の授業では、項目のみ配布する。内容は口頭で説明する。

- ①授業への貢献
- ②予習と復習
- ③宿題（アサインメント課題）
- ④提出物（レジュメなど）

- ⑤学生コメントカード
- ⑥授業用資料への掲載
- ⑦出席を（レポート不調でも）
- ⑧授業への参加・質問・など
- ⑨学生による授業アンケート
- ⑩目標を明確に持って
- ⑪楽しく充実した
- ⑫P Cの持ち込み
- ⑬「教員講習会です」

.....

この授業の概要説明はここまでです。皆さんが、この授業に関してまだ疑問に思うことや、学びたいことや、行ってみたいことなどあれば、遠慮なく申し出てください。ご希望については、クラス全体の皆さんの学習に貢献出来ると考えられる内容であれば、積極的に取り上げていきたいと考えています。

（希望）（特に学びたい点）・・・メール送信のこと（送付先 教員アドレス）